ともに挑む。ともに実る。
MIZUHO みずほフィナンシャルグループ

〈みずほ〉の公募投資信託（ファンド）の評価の考え方

※以下、当資料では投資信託のことを「ファンド」と表記しています。

〈みずほ〉では、定性、定量の両面からファンドの運用面におけるクオリティーを評価しています。
定性評価では、主に ①運用会社 ②運用チーム ③運用プロセス等の3点から評価を行います。
定量評価では、過去の運用実績の数値を基にパフォーマンス等を評価しています。

パフォーマンス等の定量評価はファンド評価における重要な要素ですが、優れたパフォーマンスを継続させるためには、運用会社の理念と強固なビジネス基盤、高い運用力を持続させるチーム体制、運用の継続性を担保する運用プロセス等が不可欠であるという考えの下で、〈みずほ〉では定性評価についても力を入れています。

<ファンド評価における重要なポイント>

ファンド評価については、取扱ファンドの選定時に実施しているほか、取扱開始後も定期的に実施（モニタリング）しています。
調査結果を踏まえてパフォーマンス改善に向けた対応策の検討を要請する等、お客さまへ提供する商品の質を保つよう努めています。

※ファンドの選定においては、定量評価で絞り込みを行い、運用状況が良好と考えられるものに対し定性評価を行っています。モニタリングにおいては、定量評価で一定の基準に該当したものに対し定性評価を行っています。

定性評価について　①運用会社の評価ポイント

➢ 経営方針やビジネス状況、財務状況、人事制度等を確認することで、パフォーマンスの継続性をサポートできる体制かどうかを評価します。

運用会社 / 運用チーム / 運用プロセス等

運用会社の特徴をつかむ

運用会社

<運用会社を評価する主なポイント>

着目点

① 経営方針・ビジネス状況
運用力を強化するための施策を十分に講じているか？ など

② 財務状況
会社の安定性や収益性に問題がないか？ など

③ 人事制度
優秀な人材を獲得・維持できる仕組みであるか？ など

会社の特徴を把握し、強み・弱みを評価

<例：ポジティブな評価>
- ○ 安定した収益と運用資産残高を有する
- ○ パフォーマンスを第一に考え、運用者を積極的にサポートしている

<例：ネガティブな評価>
- × 運用に関するインフラ整備等の運用力強化に対する投資に消極的
- × 運用実績を考慮しない評価制度

定性評価について　②運用チームの評価ポイント

➢ 良好なパフォーマンスにつながるチーム体制、チームカルチャー、チーム内のコミュニケーションが適切なものになっているかを確認・評価します。

運用会社 / **運用チーム** / 運用プロセス等

運用チームの特徴をつかむ

運用チーム

<運用チームを評価する主なポイント>

着目点

① チーム体制
リーダーはどのような人物か？チームメンバーの経験年数は？ など

② チームカルチャー
チームが大事にしている価値観は何か？ など

③ コミュニケーション
運用プロセス等の向上を企図した活発なディスカッションがなされているか？ など

チームの特徴を把握し、強み・弱みを評価

<例：ポジティブな評価>
- ○ 経験豊富なメンバーが揃っている
- ○ チームとしての実績が豊富
- ○ 特定のメンバーに依存しない体制

<例：ネガティブな評価>
- × チームリーダーがパフォーマンス改善への意識に乏しい
- × チームの離職率が高い
- × メンバーの低いモチベーション

定性評価について　③運用プロセス等の評価ポイント

➢ どのような投資哲学や運用目標のもと運用しているかや、運用プロセスに優位性があるかを確認・評価します。

運用会社 / 運用チーム / **運用プロセス等**

運用プロセス等の特徴をつかむ

運用プロセス等

<運用プロセス等を評価する主なポイント>

着目点

① 投資哲学
どのような信念に基づいてリターンを出そうとしているか？（プロセスの根幹）

② 運用目標
どのような目標をめざして運用しているか？（パフォーマンスの良し悪しを判断する基準）

③ プロセスの優位性
一貫性・継続性のある運用プロセスか？ など

プロセスの特徴を把握し、強み・弱みを評価

<例：ポジティブな評価>
- ○ 長期にわたり投資哲学を徹底している
- ○ 明確かつ規律あるプロセス
- ○ 独自の分析で銘柄発掘に優位性がある

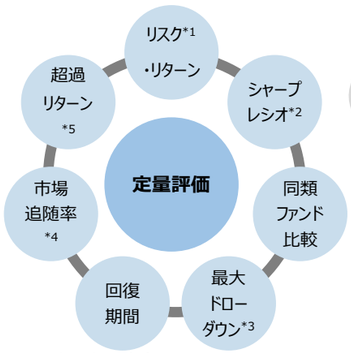
<例：ネガティブな評価>
- × 明確な運用目標、運用哲学を持っていない
- × 局面によって場当たり的に行動が変化する
- × 継続的な改善が行われていない

※定性評価は、上記の各評価項目を基に、総合的に判断しています。上記の例は一部を抜粋したものであり、そのすべてを説明しているものではありません。
※上記は〈みずほ〉のファンド評価の考え方を示したものであり、すべての取扱ファンドに対して上記の評価を行っているものではありません。

定量評価について

- 定量評価については、以下の「定量評価の調査項目」に示した項目を主に確認しています。
- 確認にあたっては、同類ファンドやベンチマーク（または参考指数）対比のパフォーマンスを重視しており、その市場の平均よりも優れた運用か、他のファンドより優位性があるかを評価することができます。

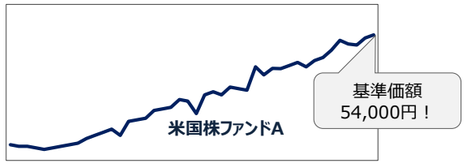
＜定量評価の調査項目＞



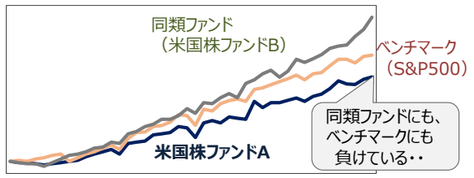
同類ファンドや**ベンチマーク**（または参考指数）との**比較**も重要！

＜同類ファンドやベンチマーク（または参考指数）との比較を重視する理由＞

基準価額だけを見ると、パフォーマンスは良いように見えます。



しかし、同類ファンドやベンチマーク（または参考指数）と比べると、劣後している場合があります。

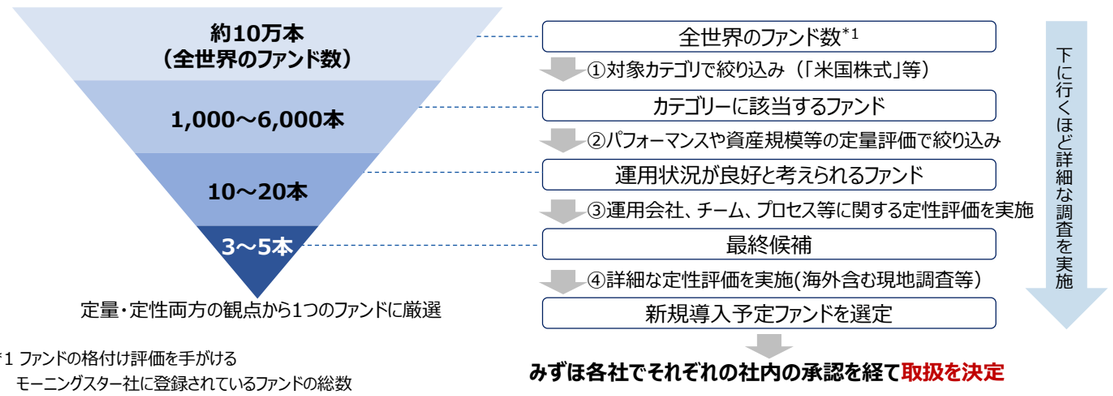


*1 リターンの振れ幅の度合いを示します。 *2 リターンを得るためにどの位のリスクを取っているかを示します。数値が大きいほど運用効率が高いことを表します。 *3 最高値からの最も大きい下落率を示します。 *4 ベンチマーク(または参考指数）の上昇/下落局面において、ファンドの基準価額がベンチマーク（または参考指数）対比でどの程度追随しているかを示します。*5 対象ファンドがベンチマーク（または参考指数）と比較してどの程度上回っている（下回っている）かを示します。

（ご参考）〈みずほ〉のファンド選定

- 〈みずほ〉では、全世界の約10万本のファンドから、対象カテゴリー内での定量評価（パフォーマンス分析）や定性評価により、お客さまにお勧めできると考えられるファンドを厳選しています。
- ファンドの新規取扱においては、厳正なプロセスに基づき採用を決定しています。

選定プロセスのイメージ



*1 ファンドの格付け評価を手がける モーニングスター社に登録されているファンドの総数

※上記のプロセスは2024年3月時点のものであり、今後予告なく変更する場合があります。
※2020年度から、みずほ証券がみずほ銀行・みずほ信託銀行の取扱ファンドの評価やモニタリングを開始しました。
※上記はあくまでもイメージ図であり、絞り込んだファンドの類似ファンドを設定する場合や、実績がないファンドを採用する場合等もあります。
※ファンドの選定にあたっては、「社会的責任」の観点（環境または社会のサステナビリティの促進に対する貢献度等）や手数料の合理性、運用会社との利益相反等も考慮し評価を行っています。

（ご参考）〈みずほ〉のファンドモニタリング

- 〈みずほ〉では、取扱ファンドが、引き続きお客さまの資産形成に資する商品かどうかを継続的に検証しています。
- 調査結果を踏まえて、パフォーマンス改善に向けた対応策の検討を要請する等、お客さまへ提供する商品の質を保つよう努めています。

モニタリングプロセスのイメージ

モニタリング対象ファンド	〈みずほ〉の取扱ファンド*1
モニタリング周期	主に月次
評価方法	定量評価＋定性評価*2
モニタリング結果の活用	運用会社に対するパフォーマンス改善に向けた対応策の検討を要請等

*1 取扱ファンドのうち、販売可能な銘柄に対しモニタリングを行っています。
*2 月次で定量評価を行い、一定の基準に該当する場合に定性評価を実施しています。すべてのファンドに対し行っているものではありません。

※運用体制等の変化について、継続的にモニタリングを実施しファンドへの影響も確認しています。
※2020年度から、みずほ証券がみずほ銀行・みずほ信託銀行の取扱ファンドの評価やモニタリングを開始しました。
※上記のプロセスは2024年3月時点のものであり、今後予告なく変更する場合があります。

【当資料に関するご留意事項】
投資信託は預金や保険契約ではなく、預金保険制度、保険契約者保護制度の対象ではありません。また、登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の対象となりません。お客さまの投資元本は保証されているものではなく、投資元本を割り込むことがあります。
本資料は情報提供を目的としたものであり、法令に基づく開示書類ではありません。

※上記は〈みずほ〉のファンド評価の考え方を示したものであり、すべての取扱ファンドに対して上記の評価を行っているものではありません。

2024年3月現在